



CP-150 D/R OWNER'S MANUAL



PGO SCOOTERS

お客様へ

この度はPGO スクーターT-REX150 をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。
この商品に添付されております取扱説明書はヨーロッパ向けに作られているため英文にて説明されています。

簡単ではございますが、機能及び取扱方法について説明している個所を日本語にてご説明できるように本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けますようお願い致します。

また操作方法及び整備に関する質問がございましたらご購入いただきましたPGO
取扱代理店までご相談ください。

PGO日本代理店

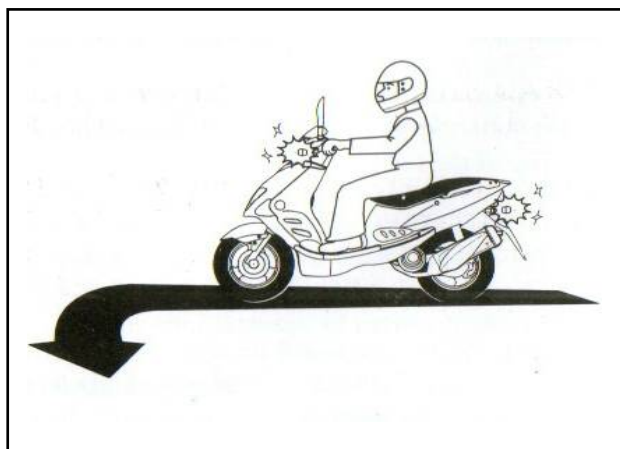
NOVEL FORCE INC.JAPAN

目 次

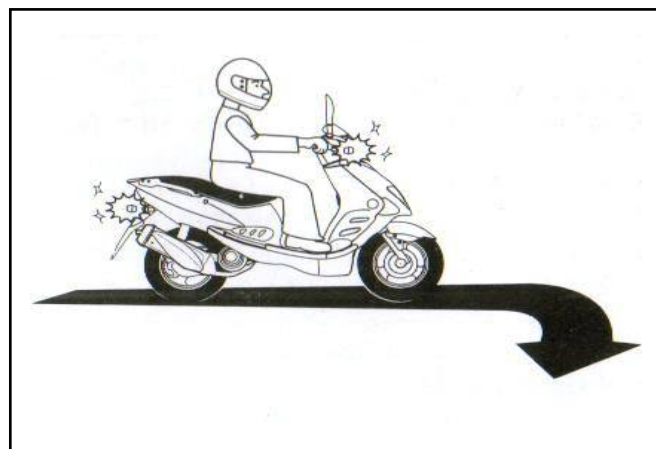
安全な乗り方の指示.....	1	ランプ・シグナルライト.....	1 3
各部の名称	2	スイッチボタン.....	1 3
エンジン番号	3	燃料	1 3
コントローラーの機能.....	3	キャタライザー.....	1 4
インジケータライト.....	4	操作・乗車する際の注意事項.....	1 4
スピードメーター.....	4	エンジンをかける.....	1 4
ハンドルスイッチ.....	5	エンジンの暖機.....	1 5
燃料タンクカバー.....	6	ブレーキ操作.....	1 6
キックスターター.....	6	エンジン慣らし運転.....	1 6
ハンドルロック.....	6	定期的なメンテナンス.....	1 9
シートロック.....	7	エアークリーナーの点検.....	2 1
荷物入れ.....	7	スパークプラグ点検.....	2 1
乗車前の点検.....	8	ブレーキ調整.....	2 2
前後輪ブレーキレバー.....	9	前輪ブレーキ点検.....	2 3
ブレーキ.....	9	後輪ブレーキ点検.....	2 3
ブレーキオイルチェック.....	9	ブレーキオイル点検.....	2 3
提案.....	1 0	フロントフォーク点検.....	2 5
スロットルグリップ.....	1 0	バッテリー.....	2 6
エンジンオイル.....	1 0	ヒューズの交換.....	2 6
エアークリーナー.....	1 1	電気系統図チャート.....	
タイヤ	1 1		

安全な乗り方の指示

1. 交通法規に定められた円滑な合図を適時出して下さい。



左 折

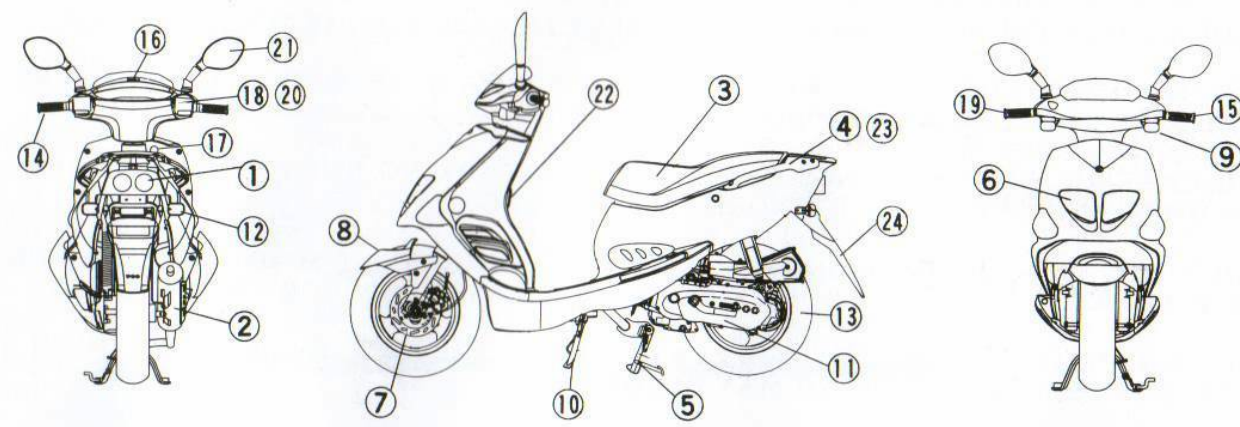


右 折

2. 路面が濡れている時はブレーキが大変効きづらくなります。スリップを防ぐ為、少しずつブレーキをかけてスピードを落として下さい。
3. 交差点や曲がり角に入る時は直立状態時にスピードを落として下さい。曲がった後は少しずつスピードを上げて下さい。
4. 駐車中の車輛を追い抜く時は気をつけて下さい。運転者はあなたが走ってくるのに気付かずにドアを開ける可能性があるので十分に注意を払って下さい。
5. 工事中の場所を通過する時は気をつけて下さい。路上の工事用車輛等があなたに影響を与える可能性があります。スピードを落として下さい。
6. スクーターを洗った後はブレーキをチェックして下さい。ブレーキライニングが濡れている可能性があります。
7. 乗車する時は安全を確保できるズボン、手袋、ヘルメット、明るい色のジャケットを着用して下さい。
8. 荷物を積み過ぎないで下さい。乗車中にバランスを崩す恐れがあります。荷物はしっかりと動かないように積んで下さい。あなたの道路状況への注意力が落ちる可能性があります。

部位

T-Rexの各部分の名称と番号は以下の通りです。



- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. テールランプ・ブレーキランプ | 13. リヤタイヤ |
| 2. マフラー | 14. リヤブレーキレバー |
| 3. シート | 15. ディマースイッチ |
| 4. メットインスペース | 16. メーター |
| 5. センタースタンド | 17. メインスイッチ |
| 6. ヘッドランプ | 18. キルスイッチ |
| 7. フロントタイヤ | 19. フロントブレーキレバー |
| 8. フロントフェンダー | 20. スロットルレバー |
| 9. シグナルランプ | 21. バックミラー |
| 10. サイドスタンド | 22. コンビニフック |
| 11. キックスターター | 23. パッセンジャーグリップ |
| 12. シグナルランプ | 24. リヤマッドガード |

エンジンナンバーの説明

エンジンナンバーは前方左側の、左のクランクケースに記載されています。



取付のシールはセアルタイプを装着し、残りは裏返すタイプ。販売店がバーンを注ぎ込む時に、必要となりますので、書き控えておいて下さい。

コントローラーの説明

メインスイッチ：
メインスイッチはエンジンの点火と
ライトを制御します。



ON：
電気回路がつながり、エンジンが始動します。この時、鍵は外せません。

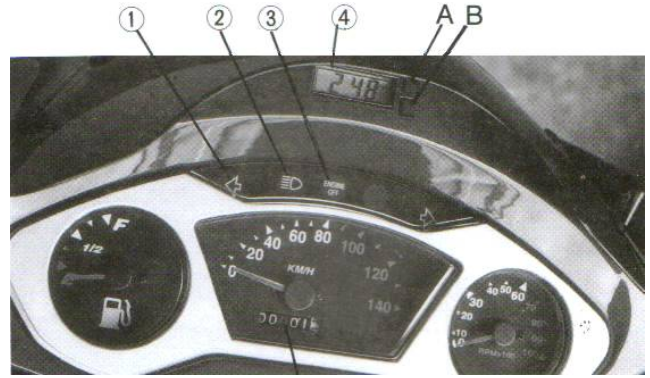
OFF：
全ての電気回路が遮断されます。この時、鍵を外せます。

LOCK：
ハンドルがロックされ、鍵を取外せます。 6 ページの“ハンドルロック操作”を参照して下さい。

* 駐車する時は、“LOCK” にして、鍵を外して下さい。

表示ランプの説明

1. 方向指示器
2. ハイビーム表示ライト
3. エンジンが停止状態にあることを示すライト
4. 時計



方向指示器（緑）

作動させると、音とともに点滅します。

ハイビーム表示ライト（青）

エンジンをかけていて、ハイビームを使用している時は、“≡D” が点灯します。

エンジントップランプ（赤）

エンジンが停止状態にあることを示すライト

エンジン停止ボタンを“OFF”にすると、ライトは“ON”になります。そして電気回路は切断されます。ボタンを“RUN”にすると、エンジンは再始動します。

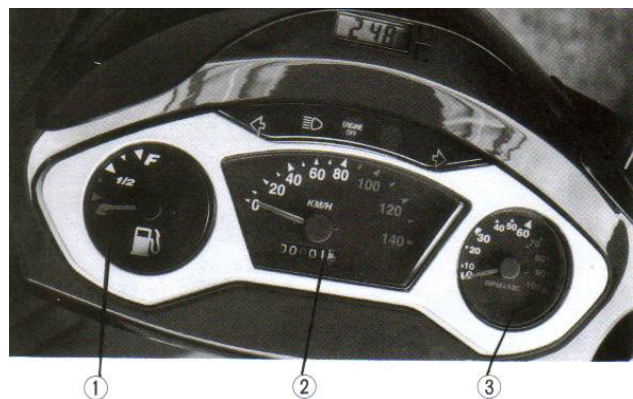
時計（通常、現在の時間を示している）

ボタン“A”を押すと現在の月・日が表示されます。2、3秒離すと自動的に時間が表示されます。

ボタン“A”を2回押すと現在の秒が表示されます。ボタン“A”を1回押すと現在の時間が表示されます。

スピードメーターの説明

1. 燃料計
2. 速度計&積算計
3. 回転計



燃料計

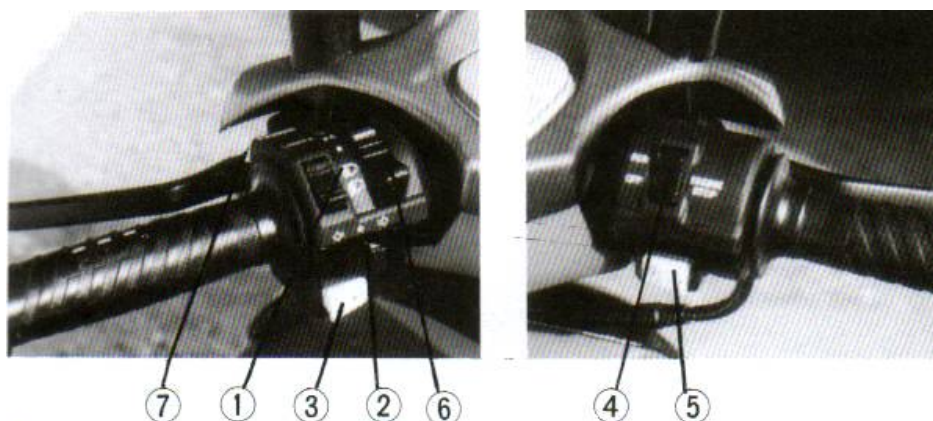
タンク中の残量を示しています。燃料が消費されるにつれ、針は“F”から“E”へと指すようになります。針が“燃料補給ライン”を指したら、出来るだけ早く燃料を補給して下さい。

* エンジンを切っている時は、針は“E”を指します。

回転計

エンジンが温まった時、停止時の回転速度は1700RPM±100に維持されます。

ハンドルスイッチの説明



1. ハイ&ローライトスイッチ

遠くを照らす時は“≡D”に、近くを照らす時は“///D”にします。

2. 方向指示器

左右への方向転換：ボタンを左、もしくは右にします。“OFF” ボタンを押すと方向指示器は自動的に中央に戻ります。

3. クラクション

ボタンを押すとホーンが鳴ります。

4. エンジンOFFスイッチ

“OFF” にするとエンジンは強制的に停止されます。“RUN” にするとエンジンの再始動が可能になります。

5. スタートボタン

ブレーキレバーを引き、同時にスタートボタンを押すと、エンジンが始動します。

注意：エンジンOFFスイッチが“OFF”になっているとエンジンは始動しません。

6. ライトスイッチ

ファーストシフトにするとフォグライトがつきます。セカンドシフトにするとヘッドランプと後部ライトがつきます。

※日本国の道路運送車両法にて原動機付自転車のヘッドライトは常時点灯が義務付けられています。従いましてこの車両はスイッチのON・OFFに関係なく常時点灯するように加工してありますのでご注意ください。

7. パッシングランプ（オーバーテイクランプ）

ボタンを押すとハイビームランプが点灯します。

燃料タンクカバー

鍵をさし、右に4分の1まわすとカバーが開きます。



キックスターター

キックペダルを出し、踏込むとエンジンが始動します（キックスターターはスタートボタンを押す代替手段として使用して下さい）。



ハンドル（ステアリング）ロック

まず鍵を鍵穴にさします。ハンドルバーを左に回して下さい。次に鍵を回し“LOCK”にします。ハンドルがロックされ鍵を取外せるようになります。

注意

乗車中はロックポジションにしないで下さい。



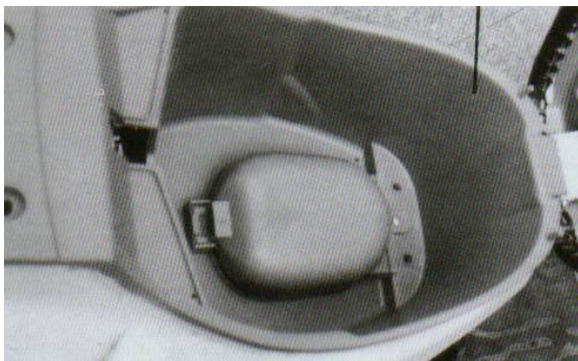
シートロック

シートを開ける時は、鍵をさして右に回して下さい。閉める時とロックする時はシートを元の位置に戻して下さい。乗車する前には、シートがしっかり閉まっているか確認して下さい。



荷物入れ

シートの下にあります。ヘルメットを上向きにして入れて下さい。



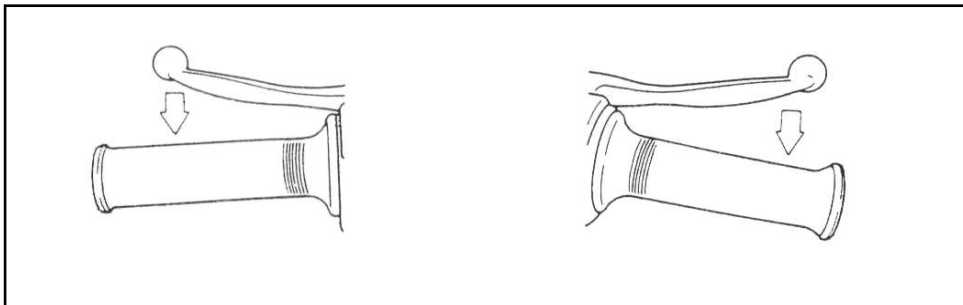
1. 最大5Kgまで入れられます。
2. エンジンを長い時間、作動させていると荷物入れが熱くなります。高温に耐えられないものは入れないで下さい。
3. 安全のため、貴重品や壊れやすいものは入れないで下さい。
4. 雨や洗車で中の荷物が濡れることがありますので、水に濡れて困るものは入れないで下さい。
5. スクーターから離れる時は、シートロックをして下さい。

以下の項目を乗車前に必ず点検して下さい。

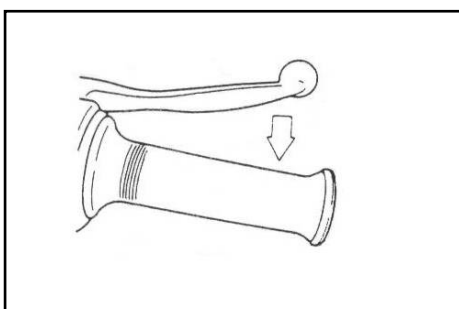
項 目	方 法	ページ
フロントブレーキ	ブレーキの機能、あそび、ブレーキオイルの量、オイルが漏れていないか確認して下さい。	22～23
リヤブレーキ	ブレーキの機能・あそびを確認し、必要に応じ調節して下さい。	22～23
スロットルグリップ	スムーズであるか確認し、潤滑油をさして下さい。	10
潤滑油	必要に応じ調節して下さい。補充が必要そうなら油量を確認して下さい。	10
タイヤ	圧力、磨耗を確認して下さい。	11
コントローラー・ ゲージケーブル	スムーズに作動しているか確認して下さい。必要に応じ潤滑油をさして下さい。	－
ブレーキレバー（ハンドル）	スムーズに作動しているか確認して下さい。必要に応じ潤滑油をさして下さい。	16
センタースタンド	スムーズに作動しているか確認して下さい。必要に応じ潤滑油をさして下さい。	－
組立て・フィッティング	全ての組立てパーツを確認して下さい。必要に応じ増し締め、調節して下さい。	－
燃料タンク	燃料の残量を確認して下さい。必要なら補充して下さい。	4
ランプ・表示ライト	良い状態で作動しているか確認して下さい。	4

リヤブレーキレバー・フロントブレーキレバー

ハンドルを持ち、レバーを引いて下さい。ブレーキが作動します。



リヤブレーキはハンドル左側のレバーを引くと作動します。



フロントブレーキはハンドル右側のレバーを引くと作動します。

ブレーキ（ 22 ページ参照 ）

1. フロントブレーキレバー・リヤブレーキレバー

低速走行で、ブレーキのチェックをして下さい。あそびをチェックし、適正でなければ調節して下さい。

注意 レバーを握った時の感覚がスポンジのような感触だった場合、ブレーキが壊れている可能性があります（とても危険です）。修理するまで、乗車しないで下さい。

2. ブレーキオイル

オイルの量をチェックし、必要に応じて補充して下さい。

（専用ブレーキフルード DOT4 を使用して下さい）。

3. ディスクブレーキのパッド（ 23 ページ参照 ）

ブレーキディスクパッドの交換・修理が必要な時は、正規販売店にスクーターを持込んで下さい。

ブレーキオイル漏れチェック

ブレーキレバーを強く握り、ブレーキチューブやマスターシリンダーの繋ぎ目からオイルが漏れていないかチェックして下さい。

※ブレーキオイルが漏れていたら、正規販売店にチェックを依頼して下さい（この状態はとても危険です）。

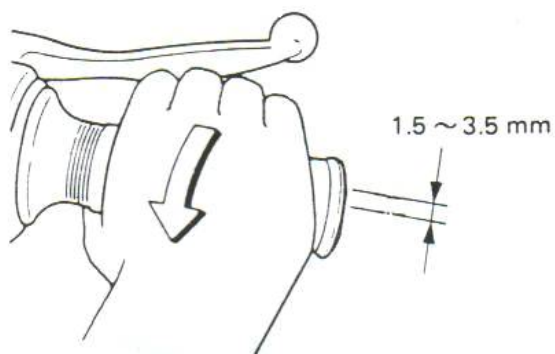
PGOからの提案

1. 点検は毎乗車前に行ってください。点検を怠らないで下さい。
2. 異常が発見されたら、調整をするか、もしくは正規販売店に持込んで整備を受けて下さい。

スロットルグリップ

グリップを回し、あそび1.5mm～3.5mmと作動状態をチェックして下さい。

グリップが自動的にもとの位置に戻るか確かめて下さい。必要に応じ正規販売店に持込み調節してもらって下さい。



エンジンオイル

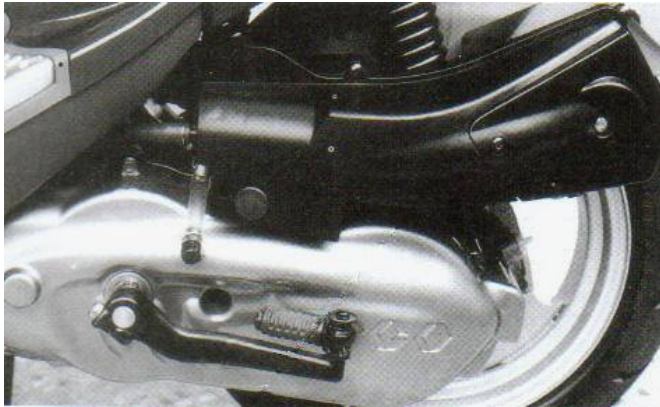
1. エンジンオイルの量はエンジンが温まって2.3分たってから調べて下さい。チェックは平らなところで行なって下さい。
2. オイルゲージを引出し、チェックして下さい。警戒を表す低いラインを下回っている場合は補充して下さい。



エアークリーナー

エアーフィルターはゴミがエンジンに入り込むを防ぐとともに、エンジンの劣化も防ぎます。定期的に正規販売店にチェックを依頼するか、自分でして下さい。

(ページ参照)



タイヤ

最高のパフォーマンスを維持し、また長持させるため、以下の事項に注意して下さい。

1. タイヤの空気圧

タイヤの空気圧は、通常の空気圧に従って下さい。

注意 空気圧を調節する時、タイヤ内部の温度は外気と同じ温度でなくてはなりません。又積荷、重さ、走行スピードといった要因も調節する前に考慮する必要があります。

通常のタイヤの空気圧

フロント : 2.0 k g / cm square

リヤ : 2.0 k g / cm square



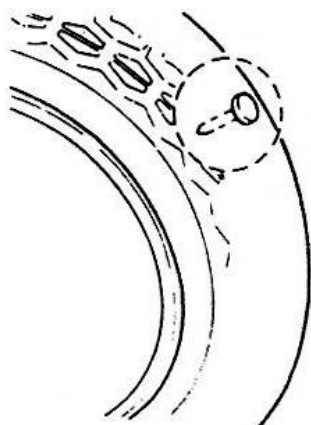
a. 空気圧が高い場合



b. 空気圧が低い場合

2. 簡単なチェック：

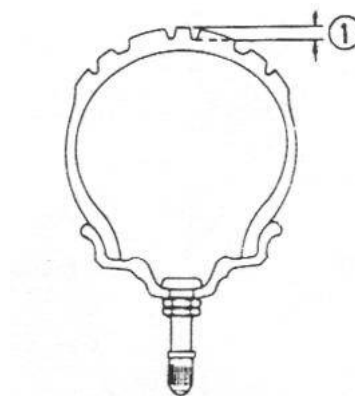
乗車前にタイヤの外観を確認して下さい。過度の擦り減りがあったり、釘、ガラスがささっているのが発見された場合は、正規販売店に修理・交換を依頼して下さい。



3. タイヤの溝の深さチェック

過度の磨耗や汚れた道・濡れた道の走行によってタイヤの表面は疲弊します。

溝の深さが 1.6mm 以下又はタイヤの表面がひび割れたら交換して下さい。以下の図を参考して下さい。



1. タイヤの溝の深さ

注意：

1. 擦り減ったタイヤでスクーターに乗るのは大変危険です。矢印のところまで溝が減っていたら、正規販売店に新品タイヤの交換を依頼して下さい。
2. 不適合なタイヤを取付けないで下さい。また、ブレーキやタイヤの修理、パーツの交換を自分で行わないで下さい。正規販売店が専門的なサービスを提供してくれます。



ランプと方向指示器

フロントランプ、リヤランプ、ブレーキランプ、方向指示器、その他の表示ライトが正常に作動しているか確認して下さい。

スイッチ

ヘッドランプ、方向指示器、ブレーキランプ、クラクション、スタートボタン、パッシングランプ（オーバーテイクランプ）が正常に作動しているか確認して下さい。

燃料（ガソリン）

十分なガソリンがタンクに入っているか確認して下さい。

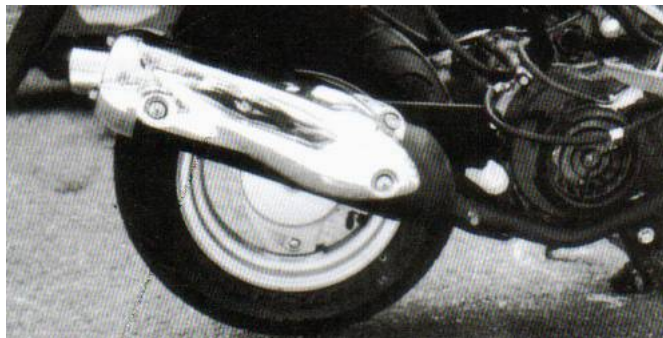
タンクの容量： 6.7L

注意：

1. スクーターがキャタライザーを装備している場合、レギュラーガソリン（添加物のないもの）を使って下さい。
2. ガソリンのフィラーレベルを超えて燃料を補給しないで下さい。高温により飛び散る可能性があります。
3. ガソリンがエンジンやマフラーにつくと発火する可能性があります。

キャタライザー（オプション装置）

キャタライザー（触媒）装置は排気システムから引き起される大気汚染を軽減するために、設計されており、マフラーの中に取り付けられています。



1. スクーターを可燃物の近くに駐車しないで下さい。
2. レギュラーガソリン（添加物のないもの）以外を使用しないで下さい。
3. 走行中にメインスイッチを切らないで下さい。
4. 可燃物の上での走行・駐車・停車はしないで下さい。
5. 常にエンジンをよい状態に保って下さい。電気回路、点火装置、燃料システムの異常作動により、キャタリスト（触媒）装置が熱を帯びる可能性があります。
6. 排気制御システムとキャタリスト（触媒）装置が正常に作動するように、スクーターの定期点検を行って下さい。

操作・乗車する際の注意事項

1. 乗車する前に全ての操作システム・機能を把握しておいて下さい。
ご質問、ご不満な点等がございましたら、正規販売店までお問い合わせ下さい。
2. 締め切った場所（通風孔のないところ）でエンジンをかけないで下さい。
3. 乗車する前にサイドスタンドを引上げてから乗車して下さい。走行した場合、危険なことになります。



エンジンスタート：

1. 走行する為にエンジンストップスイッチを“RUN”に入れて下さい。そしてメインスイッチをONにして下さい。
2. スロットルが完全に閉まっている時に、ブレーキレバーを握り、スタートボタンを押して下さい。又はキックスターターを使って、エンジンを掛けて下さい。

注意：

もしエンジンがかからない場合は、スタートボタンを押さずにいて下さい。

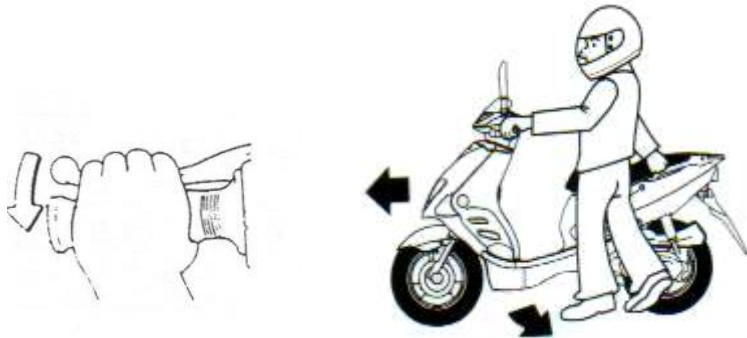
多大なバッテリーの消費を避けるために、5 秒間以上ボタンを押したままにしないで下さい。もしスタートボタンでエンジンがかからない場合は、キックスターターを使って下さい。

エンジン暖機

エンジンを大事に扱う為に、乗車する前に 1～3 分程エンジンを暖めて下さい。エンジンがまだ暖まっていないうちにエンジンに負担をかけないで下さい。

注意：

スクーターを操作する前に“エンジンの慣らし運転”のページをお読み下さい。

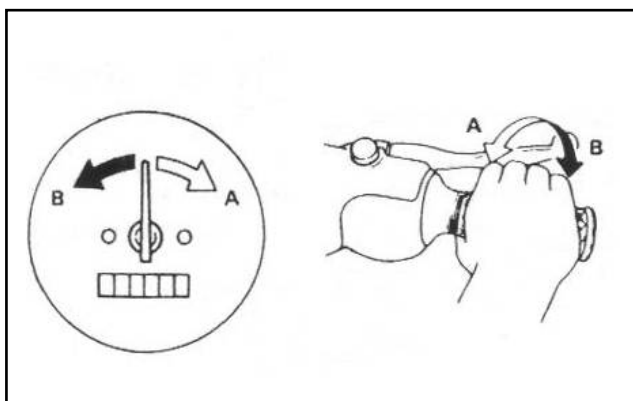


スクーターに乗るにあたって（エンジンを暖機した後）

1. ブレーキレバーをしっかりと握って、センタースタンドを下ろして下さい。
2. パックミラーで、後方がしっかり見えるか確認して下さい。
3. 交通状況を見て、乗車する前にウィンカーライトを確認しましょう。
4. ゆっくりとスロットルグリップを回し、発進後ウィンカーライトを消して下さい。

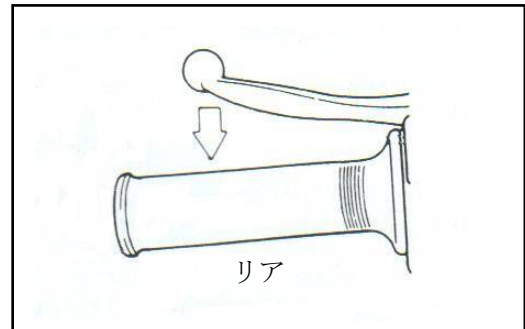
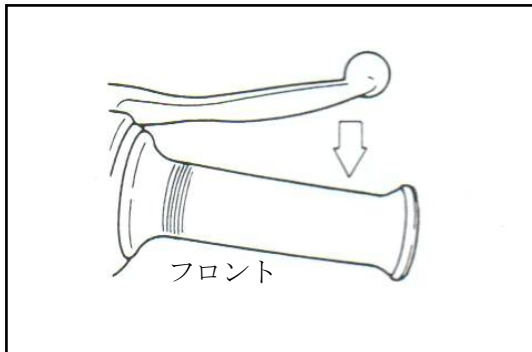
アクセル

アクセルを手前にひねると増速、戻すと減速します。円滑な操作を心掛けましょう。



ブレーキ

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. ゆっくりと前後ブレーキのレバーを引いて下さい。



注意

1. 滑ったり、転んだりする恐れがあるので、急ブレーキをかけないで下さい。
2. 一方向にスターターが傾いている時は、気を付けてブレーキをかけて下さい。不適切なブレーキのかけ方は滑ったりする原因となります。
3. 未舗装道路や鉄道路線、雨道ではスピードを落として運転して下さい。
4. 雨道や下り坂ではブレーキが利きづらくなります。下り坂を走る時は減速して下さい。

エンジン・慣らし運転

走行距離 1 km から 1000 km はスターターの寿命に一番影響する時です。新しいエンジンは始めの 1000 km はあまり負担をかけないよう機関出力の半分位で運転して下さい。

エンジンのどの部分も正常なクリアランスを得るような運転を心掛けて下さい。エンジンに過大なストレスを与える運転は謹んで下さい。

1. 0～150 km

1/2 以上のスロットル開度は避けて下さい。

1 時間に 5～10 分間程の割合で、エンジンを冷やして下さい。スピードを変えて走って下さい（長時間同じスピードでは走らないで下さい）。

2. 150～500 km

1/2 以上の長時間のスロットル開度操作は避けて下さい。

3. 500～1, 000 km

3/4 以上のスロットル開度操作は避けて下さい。

注意

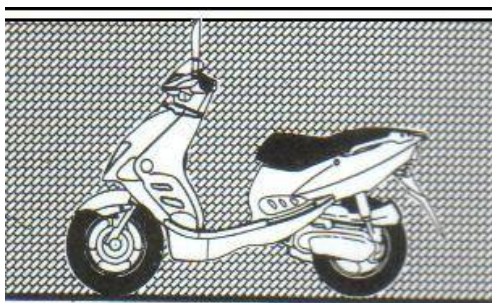
500 km を超えたら、エンジンオイルを交換して下さい。

4. 1, 000 km 以上

長時間の完全なスロットル全開操作を避けて下さい。

注意

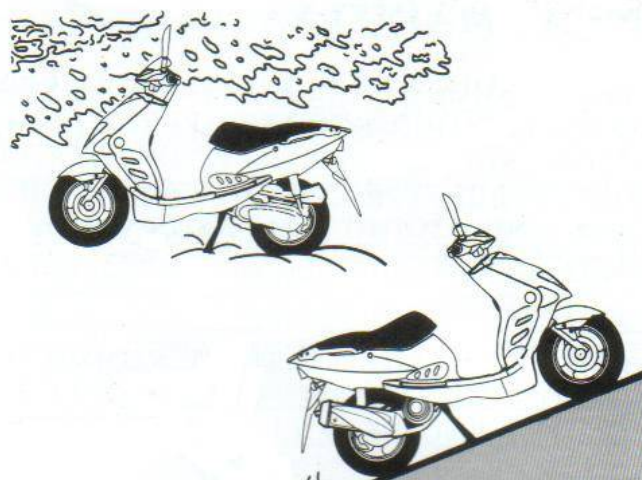
慣らし運転期間に、なにか問題があれば、正規販売店に問い合わせして下さい



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

駐車

駐車する際はエンジンを止めて、鍵を取外して下さい。

注意

乗車後はマフラーが非常に熱くなっているので、子供や歩行者からできるだけ離して駐車して下さい。スクーターを坂道や地盤が不安定なところには倒れる可能性がありますので駐車しないで下さい。

定期点検

本製品をよりよく安全に運転していただく為に、一定の期間に点検、調整、潤滑油の補充等を行って下さい。安全運転はライダーの義務です。メンテナンスと潤滑油の補充は常に認識し、環境、天候、自然の影響による事故や乗車中の偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識下さい。

注意

このスクーターは正常な舗装道路用にデザインされております。泥道や濡れている道を走る時は、エンジンの消耗が早まるので、エアークリーナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や予防措置についてご不明な点がある時は、正規販売店にお尋ね下さい。

1. メンテナンス表

安全、機能的かつ環境のために、一定の期間でメンテナンスを行って下さい。

項 目	点 検 内 容	定 期 点 検 と 走 行 距 離 に よ る 点 検						
定 期 点 検 月		1	3	6	9	12	15	18
距 離		500	2500	5000	7500	10000	12500	15000
エンジンオイル*	交 換	○	1000kmごとに交換して下さい					
オイルフィルター*	必要に応じて掃除又は交換	○	3000kmごとに掃除又は交換して下さい					
エアクリナー	必要に応じて掃除又は交換		○	○	○	○	○	○
キャーオイル*	交 換	○	○		○		○	
ディスクブレーキオイル	オイル漏れと機能チェック		○	○	○	○	○	○
ブレーキレバー	機能チェックと調整		○	○	○	○	○	○
リヤアーム	機能チェックと調整			○		○		○
タイヤ*	磨耗チェック又は交換		○	○	○	○	○	○
ホイールアクスル*	緩んでいたらきつく締める							
フロントフォーク*	オイル漏れと機能チェック	○	○	○	○	○	○	○
ステアリングシャイイント	緩んでいたら締めて調整する			○		○		○
リヤアフソーハー*	オイル漏れと機能チェック		○	○	○	○	○	○
メイン/サイドスタンド	機能チェック又は交換	○	○	○	○	○	○	○
ホルトナット	必要に応じて増し締め調整	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー*	必要に応じてバッテリーのホルター							
	－シを12.8Vに維持する。シャイイントをきれいにし、必要に応じて		○	○	○	○	○	○
	通常レベルまでに液体を足す		○	○	○	○	○	○
ハーフキャップ*	エンジンが冷えてる時点検と調整	○		○		○		○
スパークプラグ*	必要に応じて清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
Vベルト*	擦切れていないか点検又は							
	必要に応じて交換			○	A	○	A	○
フローハイクラスシステム	クラックとフロックチェック							
	必要に応じて交換			○		○		
燃料フィーディングシステム	クラックとフロックチェック							
	必要に応じて交換			○		○		
エキゾーストシステム	きつく締め直すか空気漏れして							
	いたらカセットを交換			○		○		
エンジンアイドル	機能チェック又は必要に応じて							
	スロットワイヤーの調整	○	○	○	○	○	○	○
キャブレッターアイドル調整	CO/HCハ－センテ－シに従って							
	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○
エアフィルター	必要に応じて掃除又は交換		○	○	○	○	○	○
AIS－フレッシュエア－インジェクションシステム	機能点検と調整、必要に							
	応じて交換			○		○		
燃料エハ－ホ－レーショシステム	コントロールシステムチェック							
	必要に応じて交換			○		○		

注 意 :

P G O の 正 規 販 売 店 で 点 検 や 交 換 を し て も ら う こ と を お 勧 め し ま す 。

A は 顕 著 に エ ン ジ ン 性 能 が 落 ち て い る 場 合 、 機 能 チ ェ ッ ク 又 は 交 換 の 意 味 で す 。

2. 大気汚染システムコントロールメンテナンステーブル

項 目	点 検 項 目
イグニッション	もしエンジンのかかりが悪かったり、パワーが落ちていると感じるときは ピストン・シリンダーヘッド・エキゾーストの点検をしてください。 5,000 km～10,000 kmごとにさせていただくことをお奨めいたします。
ピストン	500 km走行したら、ピストンの調子を見てください

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（キャタライザー装着車用）

1. キャタライザーは燃料、イグニッション、インテイク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、キャタライザーのメンテナンスとなります。
1. エアークリーナーの維持手順（ 19 ページを参照して下さい ）。
2. スパークプラグの点検：スパークプラグが汚れていたら、清掃又は交換して下さい。
3. 燃 料 シ ス テ ム の 点 検：フュエルパイプが詰っていたり壊れていたら、修理又は交換して下さい。
4. マフラー点検：リークしていたらガスケットを締直す又は交換して下さい。
5. アイドリング RPM の点検：スロットルケーブルの適当なクリアランスの調整を行って下さい。
6. アイドリング中のエキゾースト濃度点検：キャブレターの調節は公害防止の為に測定機器のある正規販売店にて行って下さい。

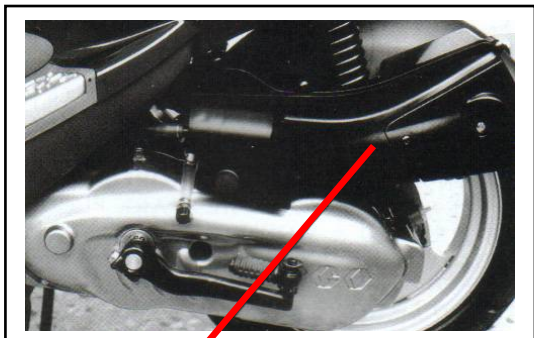
公害汚染点検テーブル（参照の値のみ）

	PS	アイドル (RPM)	CO (%)	HC (PPM)
レギュレーション	—	—	4.0 以下	6000 以下
推奨値	2±1/2	1700±100	1.0—3.0	

注意

1. 上記の値は国によって異なります。
2. 上記の行程はエンジンが温まってから 10 分間又はスパークプラグが 110 度に到達するまでは行わないで下さい。

エアーフィルターの点検



1. ネジを緩めて取外して下さい。
2. フィルターのカバーを取外して下さい。
3. フィルターの芯を引抜いて下さい。
4. エアーコンプレッサーによってきれいに乾かして下さい。
5. カバーを損傷しないよう戻して下さい。

注意

エアクリーナーを組立てる前にエンジンを絶対にかけないで下さい。ピストン／メインケースの磨耗の原因となります。

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンにとって最も重要な部品であり、また簡単に点検の出来るところでもあります。スパークプラグの状態によって、エンジンの調子がうかがえます。理想的な電極の色は薄茶色です。もし問題があれば、正規販売店に点検に出して下さい。時間が経つにつれて熱や埃の影響で腐食したり、焼け焦げたりするので、ある一定の期間で交換して下さい。腐食したり、焼け焦げたりした場合は、新しいスパークプラグに交換して下さい。

標準スパークプラグ：C7E（NGK）

スパークプラグギャップ：0.6－0.7mm

スパークプラグを点検する際、ワッシャーとねじの表面をきれいにしてから、締付けして下さい。

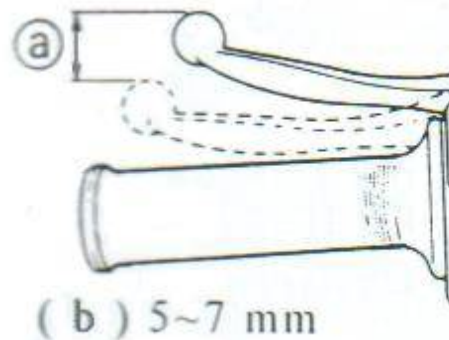
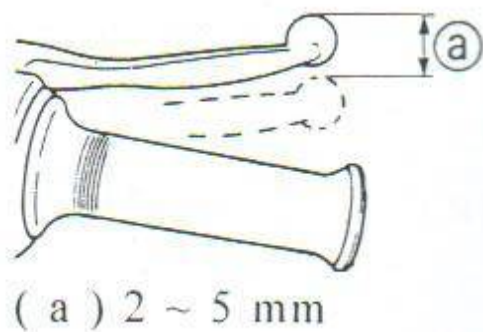
トルク：2.0KGF－M

注意：

もしトルクレンチを持っていない場合は、指で回して、1／4と1／2に合わせて下さい。そして後程レンチを使って標準トルクで締付けて下さい。

ブレーキの調整

レバーのクリアランス (a) フロントブレーキ : 2~5mm
(b) リヤブレーキ : 5~7mm



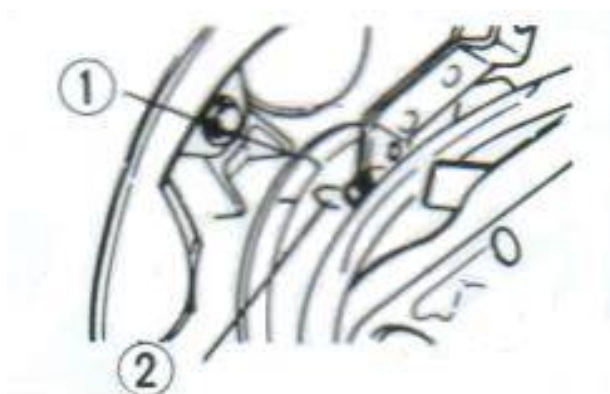
注意

クリアランスがあっていない場合は、正規販売店にお問合わせ下さい。

リヤブレーキ

インジケーターが常にブレーキライニングの状況を映し出してくれます。

インジケーターがワーニングラインに届いた時には、リヤブレーキのシューを交換して下さい。

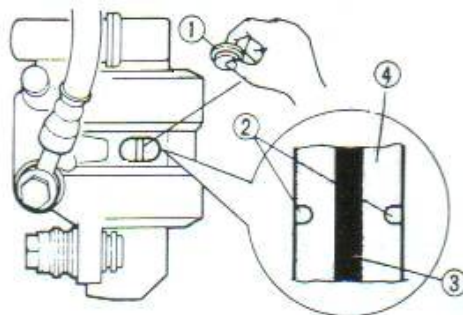


- ①ブレーキインジケーター
- ②ワーニングライン

フロントブレーキ

ビューイングホールのカバーを開けて、点検の為にブレーキを作動させて下さい。もし、インジケーターがディスクに届きそうであれば、正規販売店で交換して下さい。

1. ビューイングホールカバー
2. インジケーター
3. ブレーキディスク
4. ブレーキパッド



注意

ビューイングホールカバーは必ず戻して下さい。もし、ブレーキエリアが濡れていたら（水分）、ブレーキの効きがあまくなり、大変危険です。2～3 度、低速で軽くブレーキをかけディスクとパッドを乾かして下さい。

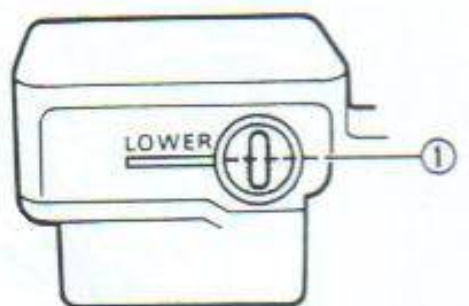
※ 英語版取扱説明書に記載してございますブレーキパッドの点検をする穴（ビューイングホール）は現在の日本仕様において設定されておりません。

万が一ブレーキの機能について不具合がありましたら PGO 取扱店にご相談ください

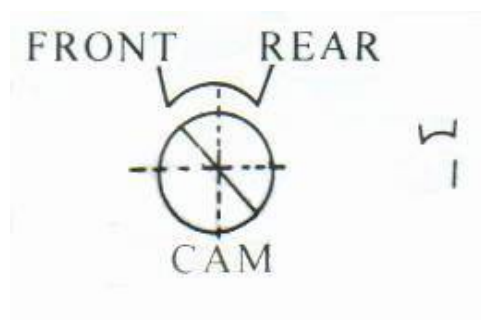
ブレーキオイル

ブレーキオイル不足はブレーキシステムの中に空気を浸入させ、ブレーキが利かなくなる可能性があります。ブレーキオイルの量をチェックして必要であれば、足して下さい。その際は以下の手順に従って下さい。

①ロワーレベル



1. オイルレベルを点検する時、ブレーキオイルが水平になるようにハンドルレバーを安定させて下さい
2. 正しいブレーキオイルを使用して下さい。でなければ、オイルシールが損傷してしまいます。そしてオイル漏れやブレーキ機能喪失の原因となる危険性があります。
3. 同種のブレーキオイルを足して下さい。他種を使用したり混ぜたりしますと化学反応を起こし、ブレーキが損傷する原因となります。
4. メインシリンダーに水が入るのを避けて下さい。さもないとブレーキオイルの沸点が下がって気泡が生じ危険です。
5. ブレーキオイルによって、ペイントの表面やプラスチックパーツが腐食してしまうこともあります。もし、オイルを溢してしまったら、処置して下さい。
6. もし、ブレーキオイルが標準のレベルまで補充できない時は、正規販売店にて修理してもらって下さい。
7. パットの点検
レバーをしっかりと握って“Mark 1”（ブレーキカム）と“U” Mark（ホイールアクスルカバーから）。Mark “1” がフロントワーニングラインに届いたら、正規販売店にて交換して下さい。（下記の写真をご覧ください）



フロントフォークの点検

注意：

アクシデントを回避する為にも、スクーターの日常点検を行って下さい。

1. 目で点検する：

インナーパイプが傷ついていたたり、損傷していたり、又はオイルが漏れていたたりしていないか点検して下さい。

2. オペレーティングチェック

スクーターを平坦なところへ置いて下さい。

- a) ハンドルを持ってスクーターを水平な位置にして下さい。そして、フロントブレーキレバーを握って下さい。
- b) 2～3回フロントフォークを持上げたり下げたりして下さい。

注意：

フロントフォークの作動に不具合を感じたり損傷していたら、正規販売店にお持ち下さい。



目で確認



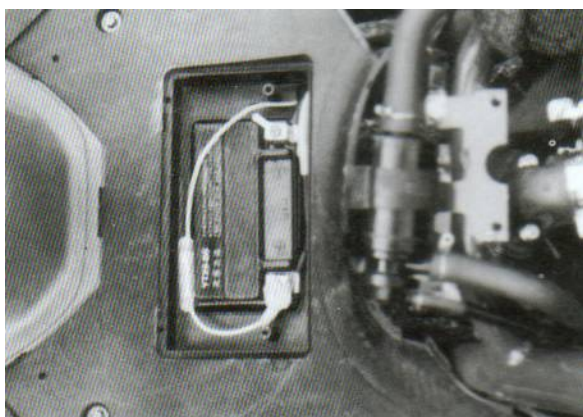
動作させてみて確認

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプですので、バッテリー液の補充や点検をする必要はありません。もし、液体が漏れていたら正規販売店に持っていき点検してもらってください。

注意：

バッテリーが壊れてしまう可能性があるので、シールボトルは剥さないで下さい。



ヒューズの交換

1. ヒューズはバッテリーの横に位置しています（ステップボードの下）。
2. 2本のねじを緩めてフロントカバーを外して下さい。
3. もし、ヒューズが断線していたら、メインスイッチと問題のパーツのスイッチを切して下さい。そして新しいヒューズと交換して下さい。再びスイッチをつけて作動状況を確認して下さい。もし、またすぐに新しいヒューズが断線してしまったら正規販売店で点検してもらってください。

注意

標準のスペックよりも高いアンペアのヒューズは使わないで下さい。

違うタイプ（標準ではない）ヒューズの使用によって、配線が強いダメージを受けたり、発火の原因となったりするので十分に気を付けて下さい。

タイプ	CP-150D
寸法：	
全長	1890mm
全幅	696mm
全高	1145mm
シーツの高さ	770mm
軸間距離	1265mm
最低地上高	95mm
最小回転半径	2130mm
乾燥重量	108kg
エンジン：	
タイプ	OHC空冷4ストローク
モデルナンバー	C5
シリンダー排列	シングル
排気量	147.5cc
スタートシステム	電動・キック
潤滑油システム	分離給油システム
潤滑油	SAE15W40
容量	0.9L
ギヤーオイル：	
粘度	SAE140
最小リフィル量	90cc
総容量	110cc
エンジンオイル：	
粘度	SAE15W40
最小リフィル量	0.9L
総容量	1.0L
エアークリーナー	ドライフィルター
燃料：	
ガソリン	無鉛ガソリン
燃料タンク量	6.7L
スパークプラグ	C7HSA(NGK)P-Z7HC(CHAMPION)
クラッチタイプ	ドライタイプ
ギヤーシフトタイプ	オートマチック(Vベルト)
タイヤサイズ：	
前輪	120/70-12
後輪	130/70-12
電気系統：	
イグニションシステム	C.D.I
ジェネレーター	フライホイールマグネット電気
バッテリータイプ	YT7L-BS
バッテリー容量	12V 6Ah
バルブボルト／量	
ヘッドランプタイプ	12V 18W/18W×2
フロントランプ(HI/L0 ビー	12V(5W/21W)×2
リヤランプ／ストップランプ	12V 10W×4
シグナルライト	12V 1.7W×1
オイル警告ランプ	現行モデルは使用していません
スピードメーター インジケー	12V 1.7W×2
ハイビーム インジケーター	12V 1.7W×1
シグナル インジケーター	12V 1.7W×2

保 証 書

お買い上げいただきましたPGOブランドスクーターはMOTIVE POWER INDUSTRY CO.,LTDの厳しい品質管理のもとで製造されたものです。万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

1) 保証期間

ご納車日より1年もしくは15,000km走行時点のいずれかの期間を満たすまで。

2) 保証の対象範囲

消耗部品および油脂類を除く全部品

3) 保証しない事項

① 通常の使用損耗あるいは経年変化により発生する現象。

(消耗部品・油脂類の消耗・劣化等。内装部品、樹脂部品、塗装面、メッキ面
などの自然退色・劣化等)

② バイクの機能に影響がないことが一般に認められている現象等。

(音、振動、オイルのにじみ、操作フィーリングなど)

③ 外的要因によるものであり、材料上または製造上の原因ではない不具合など飛石、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰等の外部要因に起因する不具合や地震、台風、水害等の天災ならびに火災、事故に起因する不具合。

④ お車を使用できなかった事による不憫さ及び損失など

(電話代、レンタカー代、休業補償、商業損失など)

⑤ 適切な点検・整備、正しい使用・管理等がなされていないことに起因するも及びPGO純正部品以外の装着・改造等に起因する不具合は保証修理いたしません。

(1) 取扱説明書に示す取扱方法に従って使用していない場合

(2) 日常点検を実施していなかった場合

(3) 法令・および弊社の指定する点検整備を実施していない場合

(4) 定期交換部品、および油脂類を指定どおり交換しなかった場合

※ 本保証書を保エンジンオイルの交換は初回1,000km以後3,000km毎に必ずおこなってください

⑥ 保証の発行

この保証書は、お買い上げいただいた PGO 取扱代理店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

⑦ 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買い上げの際は、ご購入後ただちに最寄の PGO 取扱代理店へお車とこの保証書をお持ちになり、必要な点検（有料）と必要事項の記入捺印をお受けください。これにより残り期間を保証いたします。

⑧ 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買い上げの PGO 取扱代理店へお持ちください。保証書を提示されない場合は保証修理を致しかねます。

⑨ この保証書は日本国内で販売し使用されるお車にのみ適用いたします。

従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなります。